



国際化の質のアセスメントガイド (概要)
A Guide to Assessing the Quality of Internationalisation

Axel Aerden (2013)
European Consortium for Accreditation
(欧州高等教育ア Krediyteeshon 協会)

本ガイドは、European Consortium for Accreditation (ECA) の CeQuInt プロジェクトのもと、国際化の質の評価基準を示した文書であり、プログラム単位での国際化アセスメントにおける基準と、機関単位での国際化アセスメントにおける基準の二つが示されている。なお、本ガイドは試行的評価のための暫定的なものであり、2014 年末に改訂版の公開が予定されている。

● プログラム単位での国際化アセスメントにおける基準

1. 目指すべき国際化

プログラムが目指している国際化を指す。

1a) 支持される目標

プログラムにおける国際化の目標が文書化され、プログラムの内外でステークホルダーに共有され、支持されているか。

1b) 実証可能な目標

プログラムにおける国際化の達成状況をモニタリングするために、実証可能な目標が定められているか。

1c) 改善のための手法

プログラムにおける国際化の定期的な評価の結果として、改善のための手法の施行が成功しているか。



2. 国際的多文化的な学び

国際的多文化的な学びは、プログラムの国際的多文化的学習成果に関連する。

2a) 身に付けることが期待される学習成果

身に付けることが期待される国際的多文化的学習成果は、国際化の目標を明確に反映しているか。

2b) 学習成果アセスメント

学習成果アセスメントのための手法は、身に付けることが期待される国際的多文化的学習成果を測るに際して適切か。

2c) 卒業生の学習成果達成

プログラムの卒業生による国際的多文化的学習成果の達成はなされているか。

3. 教育と学習

教育と学習は、学習成果の達成に関連している。

3a) カリキュラム

カリキュラムの中身と構造は、身に付けることが期待される国際的多文化的学習成果の達成に必要な手段を提供しているか。

3b) 教授方法

教授方法は国際的多文化的学習成果の達成にとって適切であるか。

3c) 学習環境

身に付けることが期待される国際的多文化的学習成果の達成にとって学習環境は適切であるか。



4. 教職員

教育の質と学生の達成した成果は、教職員に依拠している。教員、事務職員ともにプログラムの国際化に役割を果たしている。

4a) 教職員構成

量的、質的な教職員の構成は、身に付けることが期待される国際的多文化的学習成果の達成に影響するか。

4b) 経験

教職員が、十分な国際経験を有し、国際能力と語学能力を有しているか。

4c) 教職員支援サービス

研修、施設、人事交流等により、教職員の配置、国際化経験、多文化的能力、語学力の向上が促進されているか。

5. 学生

国際化は、学生の学習と学習経験に直接的な影響を与える。

5a) 構成

学生の文化的国籍的な多様性は、プログラムの国際化の目標に応じて構成されているか。

5b) 経験

学生の国際経験は、国際化の目標に照らして適切であるか。

5c) サービス

情報提供、カウンセリング、ガイダンス、住居支援、ディプロマ・サプリメント等学生に提供されるサービスがプログラムにおける国際化の目標を支えており、学生の構成によってサービスの範囲を変えているか。



●機関単位での国際化アセスメントにおける基準

1. 目指すべき国際化

機関が目指している国際化を指す。

1a) 支持された目標

機関における国際化の目標が文書化され、機関内外でステークホルダーに共有され、支持されているか。

1b) 実証可能な目標

機関における国際化の達成状況をモニタリングするために、実証可能な目標が定められているか。

1c) 改善のための手法

機関における国際化の定期的な評価の結果として、改善のための手法の施行が成功しているか。

2. アクションプラン

機関のアクションプランは、実際に進展のある国際化を示す。

2a) 目的への適合性

機関における国際化の計画は、国際化の目標の達成に合致するか。

2b) 観点

機関における国際化の計画は、少なくとも「国際的多文化的学習成果」「教育と学習」「教職員」「学生」の観点を含んでいるか。

2c) 手段と資源

機関における国際化の計画に、機関内横断的に国際課にかかる手段や資源の配分について記載されているか。



3. 実行

実際の国際化への取り組みの軌跡が必要である。

3a) 情報システム

国際化に関する情報を収集し、適切に処理することのできる、経営に関する機能的な情報システムを有しているか。

3b) 情報を活用した経営

国際化に関する効果的な経営のために、加工された情報を有効に活用しているか。

3c) 実現化

国際化の目標は、文書化された学習成果や結果の形で目に見えるものとなっているか。

4. 質の向上

国際化における質文化は、質の向上に焦点を当てることで発展する。

4a) 内部質保証

機関の内部質保証システムは、国際化の観点と活動を全て含んでいるか。

4b) 向上へのアプローチ

通常の時保証や活動において、国際化へのアプローチを有効活用しているか。

4c) 関係者の関与

質保証や、国際化における質の向上において、機関内外の関係者と積極的に関わっているか。



5. ガバナンス

良いガバナンスは、国際化の計画と活動の継続性を確保するものである。

5a) 責任

機関の国際化（目標、計画、実行、向上）に関する責任は、明確に定義され、割り当てられているか。

5b) 効果

組織の目標、意思決定のプロセス、（国際化に関する）リーダーシップは、機関の国際化の目標とアクションプランの実現化を助けるものであるか。

5c) 反応の速さ

国際化の活動について、機関の内外からの反応に対して直ちに対応しているか。